

平成29年度事業計画

1. 当協会をめぐる経緯・背景 ～大阪市の博物館経営形態の見直しを受けて～

当協会は、市制100周年記念事業として平成元年に設置された大阪市立科学館を運営するため、大阪市と関西電力株式会社の出捐により同年7月に設立された。それから平成17年度まで大阪市立科学館条例における管理委託者となり、平成18年度からは指定管理者として現在まで同館の管理運営を行っている。また、平成24年に公益財団法人に移行した。

現在、当協会は、大阪市における博物館施設の経営形態の見直しの議論を受けて停止条件付で5年間(平成27～31年度)の指定管理者指定を受けており、平成29年度はその3年目にあたる。

この間、大阪市においては、平成28年12月に博物館のめざすべき姿について取りまとめた「大阪市ミュージアムビジョン」が策定され、ビジョン達成にふさわしい経営形態として地方独立行政法人による経営が望ましいとの確認がされて、これを実現するための「基本プラン(案)」が平成29年2月に公表された。

これを受けて、現在、独法化推進のための予算が大阪市会で議論をされており、これが承認されれば独法化への道筋が決定されることになる。現在の大阪市の「基本プラン(案)」においては、平成31年4月に新たな地方独立行政法人が設立され、その時点で当協会が請け負ってきた事業は、大阪市博物館協会の事業とともに新法人に統合され、当協会は大阪市の指定管理者指定を取り消されて解散するものとされている。

2. 平成29年度の取り組み

大阪市が示す道筋のとおり独法化が進めば、当協会が指定管理者として大阪市立科学館の事業を請け負う期間は、残すところ平成29・30年度の2年間ということにならざるを得ない。このため、当協会としては、この2年間における基本方針を次のとおり定めて大阪市立科学館の資産価値を高め、その後の事業を新法人に引き継いでいく。

●基本方針

平成29・30年度において、「大阪市ミュージアムビジョン」で示された取り組みを進め、大阪市立科学館のミッション「科学を楽しむ文化の振興」を実現するための事業基盤を最大限拡充する。

●来館者目標

上記基本方針に基づき、平成27年度に約72万人だった大阪市立科学館への来館者数を、独法化予定の平成31年度に75万人とすることを目標とし、それに向けて、29年度73万人、30年度74万人と順次引き上げていく年度目標を掲げる。

【来館者目標】	平成29年度	730,000人
	平成30年度	740,000人
	平成31年度	750,000人(独法化の予定)

●重点取り組み項目

この目標を達成するための平成29年度の重点取り組み項目として以下の5点を掲げ、29年度予算において5000万円の重点予算枠を設定して取り組むこととする。

(1) 常設展示の充実化

日頃の調査・研究成果を活かし、新しい展示物の制作と試作、既存の展示物の改良を行うことにより、常設展示の内容を充実させる。

- ・新規展示の制作
- ・平成30年度展示改装に向けての調査の実施

(2) プラネタリウム事業の進化

当館オリジナルプログラムと生解説をさらに充実させ、質の向上とスキルアップを行う。

- ・出版社をはじめとした外部連携を活かしたプログラムの制作
- ・相互評価や講習受講等による投影のスキルアップの実施

(3) 国際交流によるグローバルな企画の実現

ドイツ博物館やクエスタコン(オーストラリア)など、海外で優れた活動を行う同種施設の学芸員・研究員と相互の研究交流を継続し、特別展などの企画を推し進める。

- ・ドイツ博物館への学芸員派遣と同館収蔵品の調査研究
- ・研究成果を活かしたドイツ博物館との連携による特別展の企画(目標:平成31年度)
- ・当館の交流実績や大阪市の都市提携を活かした海外科学系博物館との国際連携促進

(4) 外国人来館者への適切な対応

国内はもとより海外からの来館者に対しても科学を楽しんでもらうために、科学館の展示解説やホームページの多言語化を推進するとともに、情報提供のためのハード面を整備する。

- ・展示パネルの英語化推進
- ・学芸員展示解説動画の多言語化
- ・ホームページの多言語化
- ・入館者案内業務への外国人対応システムの導入(通訳アプリ、クラウド活用等)

(5) 来館者数増と収益基盤強化に向けたマーケティング、プロモーション戦略の構築、実施

来館者属性や行動データを把握分析してマーケティング戦略を構築し、それに基づいた広報・プロモーションを効果的に実施する。

- デジタルマーケティングツール（AI Beacon等）やチケット発券システム、来館者アンケートによるデータ収集、分析（リピート率、客単価、来館者動線、実来館者数、曜日時間毎の来館者分析等）
- WEBプロモーションの強化推進（SNS、YouTube、HP等）
- 来館者口コミ情報の分析と、良い口コミを増加拡散させるための戦略策定
- トrendや来館者ニーズに合致した企画やイベント、サービスの検討・実施
- 他施設、各企業、団体との連携・アライアンス強化

1. 大阪市立科学館の管理運營業務受託事業(収入:223,858千円、支出:242,575千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。

(2) 展示場の公開・管理

1) 展示場の公開を行う。

(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやこで科学、1階:電気とエネルギー)

2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う。

特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。

3) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。

4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。

5) ボランティアが展示案内やエキストラ実験ショーを実施する他、「サイエンスガイドの日」や「We are, 科学デモンストレーターズ!」の日には一堂に活動する等、市民参画を促進する。

6) 企画展「石は地球のワンダー」(29年3月より継続開催)、「大阪市立科学館資料で見るノーベル科学賞」、「にじのせかい」を実施する。

(3) 教育・普及事業

1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。

2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。

3) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。

大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。

その他、大阪市博物館協会並びに同協会が運営する各館と連携しつつ事業を実施する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

1) 出版事業及びホームページ、電子メールマガジンを活用し実施する。

2) 科学館内の案内看板を一部デジタル化するなど整備する。

3) 事業案内チラシの発行を行う。

4) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

5) SNSを活用したPR活動を行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業(収入:147,761千円、支出:145,109千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:141,456千円、支出:105,732千円)

1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。

- 2) 幼児とその保護者を対象にした「ファミリータイム」は実施を拡大し、従来の投影に加え、6月から8月の開館延長実施日の14時からの投影も行う。
- 3) 学習投影、幼児投影を引き続き実施する。
- 4) スペシャルナイトを実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。
- 5) 番組で使用する映像ソフトは原則独自制作とし、また今年度は映像ソフト「眠れなくなる宇宙のはなし」を制作する。制作したソフトは、他館での採用を目指してプロモーション活動を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページ、SNSなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:300千円、支出:0千円)

オリジナル制作の「オーロラ」等、当協会で作成した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業(収入:6,005千円、支出:33,978千円)

1) 独自事業

- ① 当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ② ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③ 夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④ アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを実施する。
- ⑤ 大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを実施する。
- ⑥ アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修講座を実施する。
- ⑦ 来館者アンケートを実施する。
- ⑧ 学校との連携をさぐり、未来館校の中から来館可能性の高い学校に対し働きかけを行う。

2) 連携事業

- ① 他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。
- ② また、周辺ホテル、大阪観光局、中之島ウエストプロモーション協議会、大阪PTA協議会、地域女性団体、近隣区役所、鉄道会社や旅行会社等に対し効果的な「プロモーション活動」を実施する。
- ③ 科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。
- ④ 日本IBM社によるジュニア科学クラブの科学教室、大阪管区气象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。
- ⑤ 「光の饗宴」「中之島ウエスト冬物語」など大阪市の関連事業や、国立国際美術館での「企画展」など連携しての事業などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、支出:5,399千円)

- ① 物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。
- ② 展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。
- ③ 理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。
- ④ 研究成果をコロキウムや研究会、論文等を通じて積極的に公表し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:29,660千円、 支出:28,255千円)

<事業内容>

(1) 売店(収入:29,660千円、 支出:28,255千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。

※ 参考資料

平成29年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期 間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
29. 3. 2～5. 28	見えない宇宙のミステリー ～謎の光・X線をとらえろ～	見上げよう！未来の星空 - 10万年後にタイムスリップ -	動く？動かない？チカラ の実験！
29. 6. 2～8. 27	木星と土星を見よう	天の川をさぐる	むらさきキャベツの大実 験！
29. 8. 29～11. 26	秋の夜長に月見れば	さがせ！第2の地球	マイナス200℃のふしぎ
29. 12. 1 ～30. 2. 25	ブラックホール合体！重力波	星の誕生	虹でじっけん、光のせか い
30. 3. 1～3. 31	はるかなる大マゼラン雲	眠れなくなる宇宙のはな し	ふわふわ、きらきら！シ ャボン玉サイエンス

※このほか「ファミリータイム」を土日祝日のほか、学校休業期間の平日にも実施する。